



Prof. Yeek HERR

略歴

DMD, MSD, PhD, School of Dentistry, Kyung Hee University, Seoul Korea
Visiting Scientist and then Visiting Professor, Department of Oral Biology, State University of New York at Buffalo, New York
Vice President, The Korean Academy of Dental Education
Professor, Department of Periodontology, School of Dentistry, Kyung Hee University
Published Two Textbooks: Evidence-based Clinical Periodontology and Published Yeek Herr's Atlas of Periodontology-based Implantology I, II in Korean

韓国の高齢者でみられる歯の喪失とフレイルとの関連性： 韓国のフレイルコホートおよび介入研究での歯科領域の結果

韓国歯周病学会 理事長／慶熙大学校 歯医学専門大学院 歯周科学教室（ソウル 韓国）
Yeek HERR

近年韓国では全身の健康及び疾患と口腔の健康との関連性に関する様々な研究結果が報告されている。しかし、韓国の高齢者を対象とした口腔健康とフレイルとの関連性に関する研究はほぼ無かった。2016年から2020年まで実施された、韓国のフレイルコホートおよび介入研究（Korean Frailty Cohort & Intervention Study）の中、歯科領域に参加し高齢人口での口腔健康とフレイル及び全身疾患との関連性の究明した。

70歳以上の人口を対象とし、全国の9か所のセンターで医歯学的問診、健康検診およびパノラマ写真撮影を実施し、被験者をFriedフレイルの指数（Fried Frailty Index）により、非フレイル、前フレイル、フレイルの段階に分類した。有病率の高い6個の全身疾患（高血圧、脂質異常症、糖尿病、骨関節炎、骨粗鬆症、前立腺疾患）を選び分析を行った。

口腔健康に関する指標としては、パノラマX線画像を撮影し残存歯、喪失歯、う蝕歯、修復歯およびインプラントの数を確認した。また、計測を行い放射線学的な歯槽骨の喪失を測定した。フレイルするほど歯の喪失は増加し、無歯顎の状態である可能性が増加した。全身疾患と歯の喪失との相関関係は、先行研究の結果とやや一致していない。現在までの研究結果によると歯の数で代表される口腔状態は、フレイル段階及び骨粗鬆症との有意義な関連性があることが明らかになった。